

～ウランの力で命をつなぐ 最先端がん治療～

前月号まで、ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）について、ホウ素薬剤や中性子発生装置の開発研究を説明してきました。今回のテーマはBNCTを一般的ながん治療を推進するためのルール作りについてです。

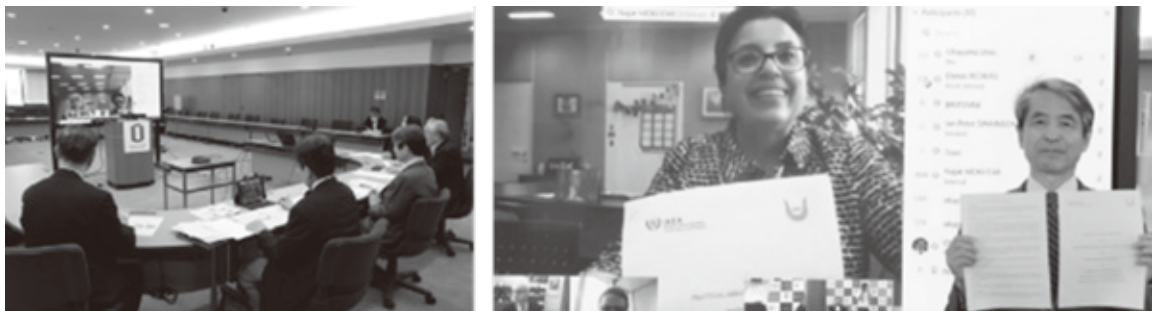
国連システムの1つである国際原子力機関（IAEA）では、原子力の軍事的利用への転用を防ぎ、平和的利用を促進するための活動を行っています。鏡野町の人形峠環境技術センターは核燃料施設の廃止措置の先駆者として安全最優先の研究開発を行っており、IAEAと深く関わっています。

2015年3月には鏡野町で「放射線の明日を考える」と題してシンポジウムが開催され、IAEAから2名の講師が参加し、放射線廃棄物の現状や制度について講演がありました。

岡山大学では2016年10月にIAEAと「BNCT研究教育に関する協力協定」を締結しており、2020年6月にはこの協定が発展継続されました（写真）。

これによりBNCTの薬剤開発、ガイドライン策定、教育などについてIAEAと連携し、BNCTを促進しています。岡山大学中性子医療研究センターからはIAEAに1名の職員を派遣し、BNCTの国際的なガイドラインを定めるための準備活動とIAEAのホームページでBNCTの情報発信のためのシステム整備を行いました。さらに、IAEAの放射線に関するe-ラーニングの日本語訳を行い、国際的な放射線に対する考え方を日本に発信しました。

今年度より岡山大学では中性子医療コースを開設しグローバルな人材育成を行っています。サステナビリティ（持続可能性）とウェルビーイング（幸福）を追究する研究大学として、BNCT国際共同研究のさらなる発展を進めています。



2020年6月 岡山大学とIAEAのBNCTに関する協定書調印式

お問い合わせ先 鏡野町まちづくり課 担当:小林 電話(0868)54-2982